

まつもと版

里

親

だより

vol. 9

<里親さん紹介>

A里親さんは、高校生のBさんを受託し養育にあたってくださいました。この春からは、Bさんは高校を卒業し大学に進学されます。高校生だけでなく乳幼児や小中学生の受託経験もお持ちの、経験豊富な里親さんでもあります。高校生ならではの様々な悩みや課題に対して日々向き合ってくださいましたA里親さんに養育を振り返っていただき、Bさんからも寄稿をいただきました。



Q. 今まで養育されたBさんの成長の過程や、頑張ってくださいましたBさんへのはなむけの言葉をお願いします。

12歳の時に会ってから、あなたには盆暮れ無く振り回されましたね（笑）
お陰さまで貴重な経験をたくさんさせてもらいました（笑笑）
そんなあなたが、もう大学生なんですね。父も母もとっても嬉しいです。
穏やかな表情になり、心の底から笑えるようになったね。よく頑張りました。
ときどきムスッとするけど、それも可愛いよ。
大学では友だちと仲良く、夢に向かって頑張ってください。いつも応援しています

Q. 中・高校生ならではの難しさ、乳幼児や小学生とは違う養育は、こういったことを心掛けましたか？

プライバシーと自尊心を守ることを心掛けながら、お世話をしてきました。
とはいえ、部屋の様子、身だしなみ等が目に余るときには、それを自覚し納得して直せるよう、段階を踏みながら声掛けを続けました。
基本的な生活習慣だけは身につけさせてあげたい、素敵な大人になって欲しいという思いでお世話させていただきました。

Q. これから高校生になる児童を委託する里親さんへのメッセージをお願いします。

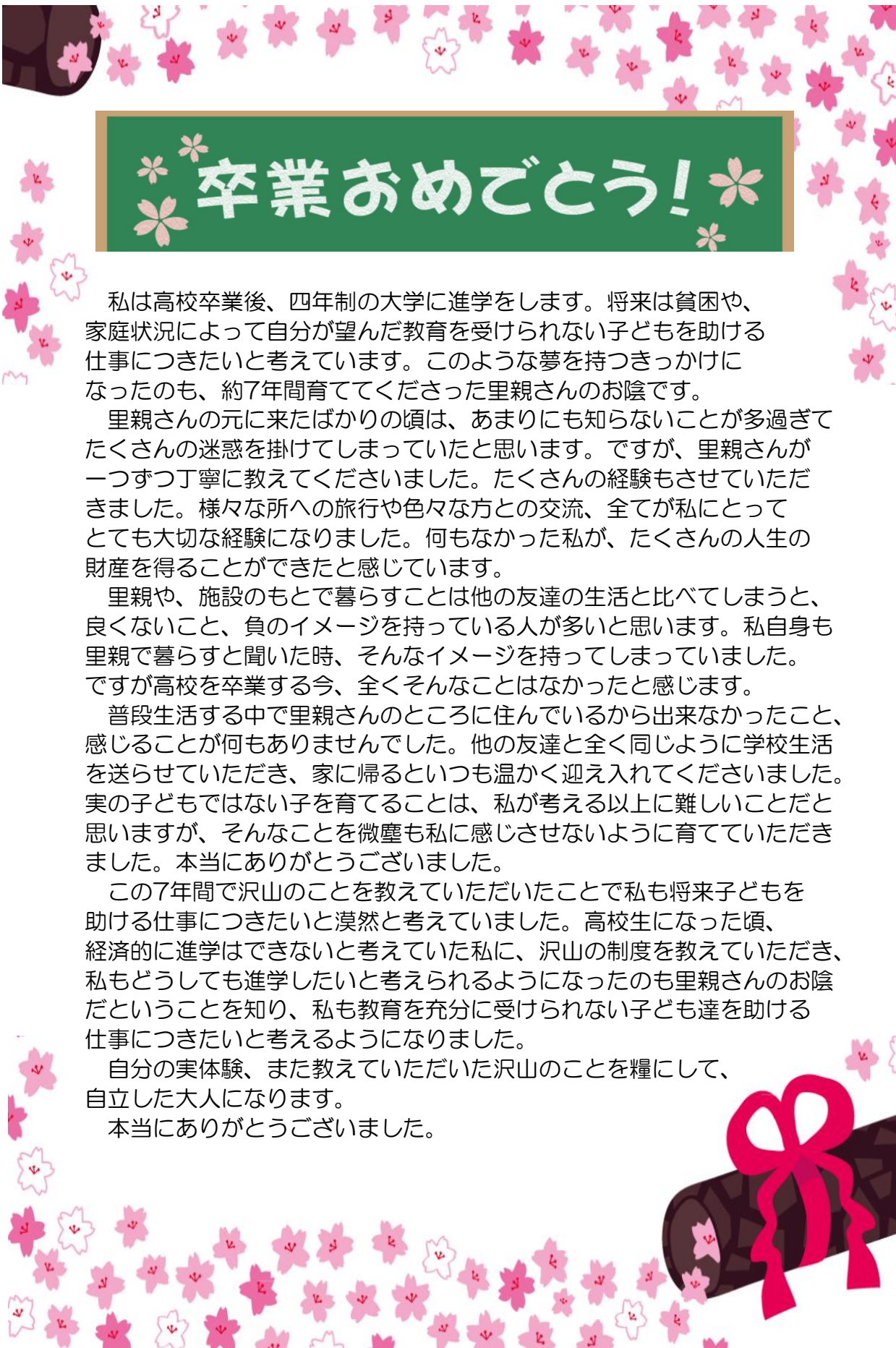
高校生ともなれば、いろいろごまかすことも上手になるかもしれません。

ある程度のことは目をつむり、要所ではきちんと指摘して「あなたが大事だから注意した」と、いつも見ていることを伝える。

また、高校生も小さな子どもと同じで

「褒めて欲しい・認めて欲しい・甘えたい」と思っているので、少しでもできたことはしっかり褒め、一緒に喜ぶことが大事だと思います。





卒業おめでとう!

私は高校卒業後、四年制の大学に進学をします。将来は貧困や、家庭状況によって自分が望んだ教育を受けられない子どもを助ける仕事につきたいと考えています。このような夢を持つきっかけになったのも、約7年間育ててくださった里親さんのお陰です。

里親さんの元に来たばかりの頃は、あまりにも知らないことが多過ぎてたくさんの迷惑を掛けてしまっていたと思います。ですが、里親さんが一つずつ丁寧に教えてくださいました。たくさんの経験もさせていただきました。様々な所への旅行や色々な方との交流、全てが私にとってとても大切な経験になりました。何もなかった私が、たくさんの人生の財産を得ることができたと感じています。

里親や、施設のもとで暮らすことは他の友達の生活と比べてしまうと、良くないこと、負のイメージを持っている人が多いと思います。私自身も里親で暮らすと聞いた時、そんなイメージを持っていました。ですが高校を卒業する今、全くそんなことはなかったと感じます。

普段生活する中で里親さんのところに住んでいるから出来なかったこと、感じるものが何もありませんでした。他の友達と全く同じように学校生活を送らせていただき、家に帰るといつも温かく迎え入れてくださいました。実の子どもではない子を育てることは、私が考える以上に難しいことだと思いますが、そんなことを微塵も私に感じさせないように育てていただきました。本当にありがとうございました。

この7年間で沢山のことを教えていただいたことで私も将来子どもを助ける仕事につきたいと漠然と考えていました。高校生になった頃、経済的に進学はできないと考えていた私に、沢山の制度を教えていただき、私もどうしても進学したいと考えられるようになったのも里親さんのお陰だということを知り、私も教育を十分に受けられない子ども達を助ける仕事につきたいと考えるようになりました。

自分の実体験、また教えていただいた沢山のことを糧にして、自立した大人になります。

本当にありがとうございました。



「里親制度広報啓発inアイシティ21」を開催しました!

2月23日の日曜日、3連休中でもValentineとホワイトデーの合間で来場者が少ない印象でしたが、里親制度に関心がある方が来てくださったり、アルクマ登場とともに訪れる方が増え、関心を示されたご家族連れをメインに広報チラシやグッズをお配りし、里親制度を知っていただく機会となりました。

今年度も里親制度広報啓発活動として、中信地区各地で、パネル展示と里親制度説明会を開催してきましたが、今後もより多くの方に里親制度をご理解、ご協力をいただけるような広報活動に努めてまいります。



ちょっと
ひといき

2021年本屋大賞に輝いた町田そのこの同名小説『52ヘルツのクジラたち』の成島出監督の映画を、配信で観る機会がありました。

かつて家族から搾取されて傷ついた辛い記憶を持つ女性が、母親から虐待を受け「ムジ」と呼ばれる少年に出会い、自身の“声なきSOS”を聴き救い出してくれた友人との日々を思い出し、少年を救っていく物語です。

ヤングケアラー、ネグレクト、虐待、DV、トランスジェンダーといった重たいテーマですが、声なきSOSに寄り添える人でありたいと感じました。

「52ヘルツのクジラ」とは、他のクジラには聞き取れない高い周波数で鳴くクジラのこととて、世界で最も孤独なクジラと言われています。

「松本児相版里親だより」や里親制度に関するお知らせは、
下記松本児童相談所ホームページでご覧いただけますので
ご活用ください

<https://www.pref.nagano.lg.jp/matsujido/index.html>

(松本児童相談所🔍) 右記QRコードもご利用ください。)

